

# 宇治市小学校給食における提供のあり方検討委員会会議録

## (第2回)

第 2 回				
出席者	委員	坂本 裕子(京都華頂大学 教授) 福田 小百合(京都文教短期大学 准教授) 西 祐子(西大久保小学校 校長) 石原 和彦(笠取第二小学校 校長) 西本 真里(槇島小学校 栄養教諭)	日 時	2022年7月1日(金) 10:00~11:30
	事務局	宇治市教育委員会 岸本教育長、上道副部長、林口教育支援センター長、吉田課長、宮山副課長	場 所	生涯学習センター 1階 第2ホール
議題	1. 前回の振り返り(資料1) 2. 宇治市小学校における主な食育の取り組みと対応(資料2) 3. 給食センターに係る課題等への対応(資料3~6) 4. 意見交換			
協議資料	資料1 : 第1回委員会の概要 資料2 : 宇治市小学校での主な食育の取り組みと対応 資料3 : 近隣市給食センターへの調査結果 資料4 : 給食センターにおける機能 資料5 : 府内14市における学校給食の実施状況 資料6 : 給食センターと給食室の費用比較			
1. 前回の振り返り(資料1)				
2. 宇治市小学校における主な食育の取り組みと対応(資料2)				
3. 給食センターに係る課題等への対応(資料3~6)				
事務局:(資料説明)				
4. 意見交換				
委員	長: 食育について、こういう形(資料2)で実施できるのではないかと説明がありました。また、他市の状況を確認していただいて、センター方式で良かった点、課題に感じている点について明らかになっています。 宇治市はセンターをこれからつくるので、他市の実践例を見て課題をクリアしながらセンターを建設できるところは、遅く取りかかることの強みかと思えます。			
委員	員: 自校方式の食育の一番のメリットは、距離が近いので、タイムリーに食育ができることだと思っています。センターは距離があるので、意見交換してそれを考えて実施してというところで結構タイムロスがあると思っています。 センターでできることももちろんあるのですが、自校にメリットが大きいのではないかと思います。			
委員	長: 今、食育について意見をいただきましたが、自分で収穫したものを実際に食べるといった総合学習をセンターに取り入れたら効果的な食育になるのではと思います。 試食会についても、センターはセンターで実施するとともに、各小学校でも(配送してもらって)実際に行うといったシステム作りができればよりいいのではと思います。 タイムリーに伝わらないということについては、栄養教諭がセンターではなく、小学校に所属する形であれば改善されませんか。			
委員	員: 各小学校所属になったとしても、出勤はセンターにして、給食の時間に配送車と一緒に各学校に行って子どもたちを見て、返却の時間に配送車と一緒にセンターに帰ってくるという形になるかと思うので、なかなか難しいと思います。 栄養教諭の配置については、全校配置することはかなり大変ではないですか。			
委員	長: 確かに他市町村のセンター業務の大変さについては聞いています。 配置の人数や、配置の仕方など、食育に寄り添う形で検討していただきたいと思えます。			

委	員	：栄養教諭、栄養士については、食育だけでなくアレルギー対応も丁寧にしてきており、学校に1人いることはすごく意味があると考えています。
委	員	：小学校の一部をセンター方式にすることで、今まで小学校でやってきた食育がマイナスになるということは避けたいと強く思います。 それにはやはり栄養教諭、栄養士の全校配置が必要になると思います。
委	員	長：中学生は小学生の低学年と違って、食育についてはセンターを活用していけるのではと考えているのですが、小・中学校でセンターをされている栄養教諭の方のお話を伺われたことはありますか。
委	員	：小・中学校でセンターをされているところが多いと思うのですが、センターに勤務している先生は、センター業務が多すぎて食育までする余裕がない感じです。 先ほどの提案のようにセンター方式でも、全校に配置するという提案はいいと思うのですが、食育、給食管理をどちらもするととなると、人を置いたら何とかかなりそうという考えは少し危ない気がします。
委	員	長：センターは食数が多いので、安心・安全面がとても大事になります。ただ小学校に関しては、食育をどう展開できるのかということ、人の配置を含めて検討していただきたいと思います。 センターはドライシステムになっているので、衛生管理を徹底するために中が見えないという点が確かにあります。そのときに、中をどう紹介するかという点について、ICT技術を活用することになるかと思うのですが。
委	員	：定点カメラを設置するだけでは、子どもはすぐに飽きてしまうと思います。アクティブカメラを調理している人に付けてもらって、調理している人の視線を流すと迫力があるので、結構長く興味を持って見ていました。こういった今の技術を活用して、工夫すると思います。
委	員	長：ICT技術の進歩はすごく速くて活用すべきと思いますが、生身ではないので、生身のものは大切にしつつ、それをカバーする形で活用することになるかと思います。
委	員	：学校に給食室があることで、子どもに経験の場を与えることの大切を感じています。センターでICT技術を活用できるということは、話を聞いてわかりましたが、それに勝るものが自校給食にはあると思います。
委	員	長：生身の体験よりも、オンラインの体験が増えてきて、子どもたちの教育において課題がたくさんあると思います。家庭の食についても、食の大切さを伝える必要があると思います。食育については、どういう方法で実施するか、こっちが良くてこっちが悪いという話でもないと思いますので、できることをやっていくことになるかと思います。また、学ぶ機会は1回ではなく、繰り返し体験を重ねられるような形で運営していただきたいと私は思っています。
委	員	：統一献立については、まだ解決できないのではないかと考えていて、統一献立をやめるのか、続けるのであればどっちに寄せるのか、平等にしようと思うと質が下がることになりそうな気がしています。
委	員	長：中学校給食だけでセンターを運営する場合は全く問題ないと思うのですが、将来的に、児童数の減少や、小学校の設備の老朽化による安全・衛生面の問題を解決しようとしたときに、センターをどう活用するかですよね。
事	務	局：すぐ解決する問題ではありませんので、時間をかけて検討する必要があると思います。献立の考え方も、時代によって変わってきておりますので、色々と整理することがあると思います。 他市の状況で言いますと、自校とセンターを統一献立でされている市町村や、小中幼をセンターと一緒に調理されている市町村はあります。そういった他市についても参考にしながら、宇治市の形を考えていきたいと思っています。
委	員	：時代が変わって、献立内容が変わっていくことはあると思います。ただ宇治市は手作りおいしいという部分はずっと変わらずやってきているので、衛生面とアレルギーだけを重視しすぎるとするのは不安があります。

委員	長：学校給食のためのセンターを建てることは決まっています。 これから建つセンターを運用していく際に、小学校の給食も切り離せなくなるという予測を立てたときに、子どもたちにとって、将来給食や食育がより良くなるために、今日
	のようなことを考えておく必要があるのか、どのようなセンターをつくってもらえる必要があるのか、その点について、意見を出してもらって考えたいと思っておりますが、難しい問題だと思います。
委員	員：センターを使うとしたらということで、自分なりに色々調べて考えてみて、親子料理教室や給食試食会、動画配信などセンターを活用できるようになればいいと思います。また調理をして给对方との距離を縮めるという点は大きなポイントだと思います。自校の実際の距離や手作り感などセンターではカバーしきれない部分があると思いますので、それを踏まえた上で、センターのプラス面を整理していく必要があると思います。
委員	員：社会教育に門戸を広げられる可能性があるのは、センターの良さだと思います。センターを、給食調理する場所としてだけでなく、色々な体験ができるセンターにできたらいいのではないかと思います。
委員	員：今意見が出ているようなセンターができれば素敵だとは思いますが、かなりの人員が必要になりますし、実際本当にできるのかという不安があります。センターを何かしら活用する必要はあると思いますが、自校をやめてセンターにする理由が老朽化であれば、そこは給食室の整備を進めてほしいと思っています。
委員	長：小学校給食をセンターにした方がいいという話ではなくて、宇治市全体を考えて、小学校給食とセンターをどうするかということかと思っています。それには、栄養教諭、栄養士の配置がポイントになりますし、距離的な問題もあると思います。最新の調理技術や調理機器の導入によって、時間や技術面をカバーしておいしい給食を提供できないかと考えています。
委員	員：機材の導入をしてカバーできる部分もあるかもしれないし、それではカバーできない部分もあるかもしれないです。
委員	長：色々ご意見いただきまして、課題や、できることできないことも見えてきていると思いますが、栄養教諭、栄養士の配置を各小学校にしてもらって、食育を十分にを行い、子どもたちにおいしい給食を提供してほしいと思います。今日いただいた意見を基に、有効活用についてまとめさせていただいて、次回開催とさせていただきます。よろしいですか。
委員	員：センターの有効活用が小学校を含まなくてもよいのであれば、給食は自校で行い、センターは体験学習ができる施設であれば魅力的だと思います。
委員	長：この検討委員会の要項を踏まえて、ご意見をまとめたいと思います。
事務局	員：今日議論いただいている中で、栄養教諭、栄養士の配置が重要という意見が多数あったと思います。この点については、今後検討を十分にさせていただきたいと思います。センターの中身についても、今後決めていきますので、ご意見を踏まえて考えていきたいと思っています。
委員	長：それでは、意見を取りまとめて、次回に臨みたいと思います。以上で本日の議題は終了となります。次回の委員会の日時・開催場所については、決まり次第、事務局より案内がありますのでお願いいたします。
事務局	員：本日特に食育について議論いただけたかと思っています。小学校における食育の大切さは教育委員会も認識しておりますので、センターが整備されたとしても、今の栄養教諭、栄養士の配置をできる限り継続できるように今後調整していきたいと考えています。センターの機能についても、色々ご意見をいただきまして、整備するからには、子どもや保護者にとって、食に関しての意識を高めていけるような施設にしていくべきだと考えておりますので、今後意見を踏まえて検討していきたいと思っています。
委員	長：それでは、これもちまして第2回の検討委員会を終了したいと思います。